

はじめに

今年度はじめ、夏の実習計画を立てるに際し、2ヶ所の遺跡を予定した。両方ともすこぶる順調に話がまとまり、土地の皆様との様々な約束も成立した。無論、遺跡の地主さんも快く了解の印形を捺して下さった。

法定期日の切れる少し前に正式の書類を提出した。ところが、2ヶ所のうちの1ヶ所の行政機関が書類の受け取りを拒否したのである。「(郵送でなくて) 使用者が持参したから」と云うのである。多忙であろうから沢山の郵便物にまぎれてしまってもいけないし、札を篤くする意味もあって使用者に託したのであるのに、よほど言葉に窮したのであろう。

それでは郵送しようかとも思ったが、相手自体がひどく苦しんでいる様子が見えるので止めることにした。そのかわり、事の推移を示す記録や書類は嚴重に保管する。学問の本質に抵触するところがあるので、学史にはとどめて置かねばならぬ。

一年前の夏の調査もぎりぎりの時点で齟齬したが、幸いに必死の交渉で与論島の皆様に援けられ、代りの遺跡を確保することができた。しかし今度はその時間的余裕もなく、予定2ヶ所の中の他の1ヶ所—ウフタ遺跡—に全員がとりつくことになった。

当然、様々な無理を生じたが、龍郷町の皆様が可能な限りの御援助を寄せて下さったことは諸君らの知る通りである。篤く御礼申しあげたい。また、ウフタ遺跡を発見し、その調査の必要をアピールし、諸事を斡旋してくれた中山清美君、仕事を休んで合力して下さった里山勇廣氏をはじめとする奄美考古学会の皆様、終始激励を給わった旧知の栄土三於氏らや婦人会の皆様方にも謝辞を述べさせていただきたい。

調査の内容は、遺跡そのものが完全破壊に近い状況であったにもかかわらず、一応の形を成し、南西諸島の遺跡に屢現する石屑様の石器の解明に一步をすすめる等、見るべきもののある点は中村愿君の「まとめ」にある通りである。

中村君はこの3月で助手の任期を終える。この小冊を中村君に献じたいと云う声がある。惜別の意を表し、謝儀に代えたいというのであろう。私に異論はない。

1982年3月1日

白木原和美

発掘調査に至るいきさつ

- 1981年6月、龍郷町赤尾木「ウフタ」の宅地造成現場で、中山清美氏により、先史遺跡が発見された。
- 中山氏は直ちに龍郷町教育委員会に通報し、善処方を要望。以後中山氏は調査完了に至るまでの諸事を斡旋した。
- 町教委は発掘調査の実施に踏み切り、調査の実施を当研究室に依頼した。
- 従って調査を実施したものは龍郷町であり、当研究室は調査現場を担当し、「実習発掘」として調査を遂行したものである。
- 発掘調査は7月21日に開始され、8月4日に終了した。

調査参加者

白木原和美 甲元真之 中村 愿
山口俊博(研究生) 井上靖司 入江久成 坂田和弘
武内由紀子 檜崎浩一 西谷 大 平井利枝 松田まゆみ
吉武 学 渡辺千恵(以上3年次生) 池田伸二 内山省吾
馬原和広 蒲原 卓 古賀 朗 坂口隆裕 茂山宏美
末本八珠美 谷本浩澄 松原明美 明瀬慎吾(以上2年
次生) 中山清美 里山勇廣(以上奄美考古学会)

調査の遂行と報告書作成

山口が調査の実習指揮をとり、中村が報告書の編集に当たった。作図までの作業は全員が分担した。本文の執筆者は各文末に記名した。

本文目次

一 遺跡の位置と環境	1
二 調査の概要	4
三 出土遺物	8
1 土 器	8
2 石 器	19
3 出土状況(遺構を含む)	26
四 ま と め	33